

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775600584		
法人名	株式会社 紀泉商事		
事業所名	グループホーム 虹 (1)		
所在地	泉南市新家6001番地の3		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成23年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした敷地で、関西空港が一望できる環境と空気の良い場所です。毎月の誕生日会には利用者さんの意見を取り入れてメニュー作成しています。WAO体操も取り入れ、少しでも身体を動かすことに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の母体である中谷病院は、関連事業・施設にデイサービス、介護老人福祉施設などを開設し、地域の多様なニーズに応じて実績を積み上げている。院長は当ホーム診察に毎週訪れ、2週間に1回は2名の医師が往診するなど、医療と福祉サービスを一体化させて、利用者が安心できる生活を支えている。職員は常に利用者の横に座するなどして自然な形で利用者の要望を聴取し、利用者の希望する馴染みの場所などには一対一で外出している。またコミュニケーション障害を持っていても、十分理解できるように丁寧に説明するなどの日常支援を行い、その関係性が良質なケアを築いている。さらに、ゆったりとしたパブリックスペース、面積の広い窓ガラスから見える光景、室内の装飾・清潔さはゆったりとした潤いを生み、居心地良さを与えると同時に利用者の価値を高める環境になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもと職員は尊厳と思いやりの心をもって対応している。地域の中での自立支援として、デイサービスのクラブ活動に参加させてもらったり、町内会の清掃活動にも参加して地域との交流を行っている。	「一人一人を大切に、尊厳とおもいやりの心で、自立支援を地域の中で」の理念を申し送り時に確認している。人それぞれに異なる不自由さの支援の場面で、相手の立場に立って対応する難しさ、気づきを話し合ったり、連絡ノートに内容を記録し、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入しており、毎年自治会の菊花祭りに招待して頂き参加。又、地域の公園に散歩したり、近くのスーパーに買い物に行った時は挨拶をする様に心掛けている。	毎月1回、町内の掃除に参加し、地域の人たちと関わっている。歌体操・絵手紙のボランティアとの交流会を毎月開催している。住民から認知症の相談を受けることもある。幼稚園児との交流を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市町村が行っている認知症ケア推進事業のキャラバンメイトの講習しも参加しましたが、地域の方々へのアピールや講習会はおこなっていませんが、今後は町内会の方々に認知症の人についてお話をしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での報告や話し合いを職員会議で報告し、議事録を回覧板として全員が閲覧し捺印するようにしています。	地域包括支援センター、市介護課、区長、家族代表が出席している。諸報告の他、「キャラバンメイト」「WAO祭り」などの委員からの地域情報提供に、逐次対応している。開催は年4回にとどまっており、十分とは言えない。	運営推進会議は地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。2か月に1回以上開催し、サービスの提供状況の内容について評価・要望・助言を多く受ける取組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営委員会にて事業所の取り組みを報告し、市役所主催の市民講座には事業所としての協力を行っている。	市職員の研修の場としてホームを提供し、活用させている。市が実施する介護相談員派遣事業で月2回訪問を受け、サービス提供の状況を報告したり意見交換を行っている。研修会の案内などを受け参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体束縛は全く行っていないが、玄関扉は危険防止のために操作をしないと開かないようにしている。	ベットからの落下防止で、床での寝起きに変更するなど、身体拘束しないリスクについて話し合い、理解を得ている。玄関ドアはワンタッチ操作で開閉できる。閉塞感などの素振りを察した際、声かけや外出に付き添う。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設以来事業所内での虐待は起こっておらず、今後もその様なことが起こらないように努力していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では機会を持っていない、今後は学ぶ機会を設け、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるようにします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に必ず来所して頂き、利用者やその家族の気持ちを傾聴して、説明と理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、重要事項説明書にも公的苦情相談所を記載しており、各担当者は利用者の声を聞き、それをミーティングや職員会議等で連絡し話し合い反映させています。	家族の訪問時、家族会や苦情処理時に聞く意見や要望及びその対応の仕方は、職員会議や連絡ノートなどを通して全員が把握している。職員の私服での外出、掃除用具の変更、また食事の献立など適宜改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月に事業所代理を交えて職員会議を開き、意見交換をしており、その中で出た意見は各ユニットリーダーと管理者並びに事業所代理との話し合いにて反映させています。	行事・食事メニュー・勤務表作成など、職員はホームでの各種役割を担当し、自主的に動くなかで、意見を運営に反映させ、自らの気づきを磨いている。夜勤体制についての要望も会議で検討している。管理者は、気楽に相談できる職場作りに意を注いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協議会や市からの情報を基に出来るだけ研修に参加出来る様に配慮し、研修報告を職員会議で発表し、閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1回/月事業者同士の意見交換会に参加しており、そこでの意見や情報を職員に回覧で伝え、今後のサービスの質の向上に反映させている。また、実践者研修を受講している他施設の職員に研修生として事業所へ研修に来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に必ず来所して頂き、面談にて傾聴し入所後は本人のプロフィールの作成の為にじっくりと話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に来所して頂き、面談にて傾聴している。入所後にも計画書を作成するにあたり再度家族に話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に家族の話を聞き、本人や家族の望まれるサービスを取り入れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事にも家族に参加の声かけを行い、職員は介護する立場だけでなく家族とのつながりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見や要望などは面会時や家族会等で伺っており、23年度からは個人ケアにて本人さんの誕生日に家族の方にも声掛けをし参加を促し、本人さんの希望を尊重した企画を取り入れたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会や外出がして頂けるような環境は作っています。	友人などの訪問は、利用者にも喜ばしいことであり、笑顔・お茶のもてなしで歓迎の気持ちを表すようにしている。利用者のこれまでの体験などさらに知る機会になっている。喫茶店とか結びつきの深い場所に出かけてもいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	建物が平面な有利もあり、各ユニット間をいつでも行き来できるようになっており、各ユニットの利用者同士が交流を持てるように行事もワンユニットに集合して交流が出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所された利用者には、状態などを看護師に聞いたり、本人にも面会をするなどして励ましの言葉をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に私の心のシートを記入してもらっており、利用者や家族の思いなどを記入してもらっている。また、入居時にも家族に暮らしの希望を聞いている。	一人ひとりと寄り添い、気持ちを推し測っている。心を開くのが困難な利用者には、訪室の機会を頻繁にし会話を増やしている。利用者が関心を示し、自らの想いをのぞかせ、聞き知った情報は、日常の支援に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人のプロフィールとして利用者の生活歴や嗜好品・趣味などの情報を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成時には家族や本人の意向や要望を聞きながら作成している。	計画作成担当者は、個人記録や担当者からの情報を、家族からは面会時に要望を聞き取り、支援目標を明確にしている。見直しの設定期間は3か月としている。状態が変化した際は、随時実情に応じて対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアプランの実践記録や日々の様子や訴えを記入し、スタッフ全員が利用者一人一人の様子が分かるようにし、連絡帳への記入を行い確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の来所時には利用者の現況をお知らせし、個別外出時には家族にも利用者の意向や家族の意向を聞きながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月地域のボランティアとして歌体操や絵手紙・WAO体操などを教えに来ていただき、今年も夏祭りには演芸のボランティアさんをお願いし、既に予約済みです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が希望して協力を要請した場合は、他の医療機関の受診も行っている。	自由な選択に基づき、利用前からのかかりつけ医において必要な医療を受けられるように支援しているが、現在はほとんどが協力医療機関で受診している。毎週の院長診察、隔週の内科医住診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3回/週看護師が来ており、随時来所する訪問看護師にも利用者の状態などを施設訪問時に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした場合は定期的に病院に訪れ、婦長や看護師や病院関係者に状態を聞き、面会も行っている。又、主治医にも機会を作り状態を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方は、協力医療機関との連携があるということのみ説明している。	利用者や家族が安心して生活が送られるよう、母体の中谷病院がバックアップして医療的ニーズに対応し、医療連携体制で、看護職員が必要な連絡・調整を行っている。ターミナルケアに関して同意書を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接するデイサービスにはAEDが備えられており、緊急時には協力医療機関への連絡体制は出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の避難訓練で全職員は避難の方法は身につけてはいるが、地域との協力体制は町内会との交流で徐々に築きつつある。	スプリンクラーを2月に設置している。消防訓練は、夜間想定も含めて年2回実施しているが、近隣住民が参加しての訓練までには至っていない。自治会への連絡方法はできているが、関連機関との支援体制の確保、また災害時のための備蓄が足りているとは言い難い	災害に備えての物品用意、協力医療機関との通報による相互応援についての確認が大事である。さらに、職員だけの誘導では限界があり、地域住民の避難訓練への参加が得られるよう、協力体制を築くことが求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する声かけには、気をつけるように常日頃から配慮している。	利用者の各種記録は慎重に取り扱い、鍵のかかる書庫に保管している。言葉や態度で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように、相手の目線に合わせて話しかけることを常としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できない利用者にはいろいろな選択ができるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人を大切にの理念にのっとり、日々の業務の中で努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服などは利用者が決めているが、それが困難な利用者には職員が声かけをして利用者が着たい服を選べるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者には食事の準備や片付けを手伝って頂けるようにしている。	対面式キッチンから料理する賑わいやにおいを共有できる。配膳を手伝い、雰囲気を楽しんだり、役割感を覚えている利用者もいる。心温まるバックミュージックが流れるなか、静かに食事に集中できる雰囲気が漂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量も記入しており、主食もそれぞれの利用者の状態などでお粥を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず口腔ケアをしていただくようにしている。また、希望すれば歯科往診をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄の声かけを行い支援している。	夜間におむつをしているケースもあるが、ほとんどが各自トイレに行っている。排泄リズムは個人記録で把握している。コミュニケーションの図り方や、移乗方法を含め検討し、根気よく対応した結果、改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便のチェックをしており、排便が出にくい利用者には水分補給やココアなどの摂取をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応のマニュアルがあり、その曜日に入浴し、週3回の入浴をしていただいている。	利用者は希望に沿って週2～3回入浴している。入浴を嫌がる利用者には、「風呂」などの言葉かけを工夫している。シャワーチェア、てすり、浴槽のふちでの腰かけやすさが、補助具として自立の契機づくりになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも休息できるように支援しており、床に布団を敷いて寝ている人や、ベッドで寝ている人などと利用者が安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを用意し、利用者全員の薬の説明書が閲覧・理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フェイスシートを作成しているので利用者の生活歴や嗜好品などを聞いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行ったり、また2回/月の買い物日には近くのスーパーに行ったりしている。また、1回/月の町内会の清掃に参加し、その後は個別ケアとして喫茶店にも行っています。	外出支援を積極的に行っており、天候、体調がよければ、近所を回ったり、近くの公園などへ散歩する。車椅子利用の外出もある。買物に出かけたり、利用者の希望に合わせたマンツーマンの個別外出を毎土曜日に実施しており、利用者の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者は自分でお金を持たれているが、基本的には事務所にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がいつでも家族に電話できるようにしており、一部の利用者は自分の携帯電話も所持され、自由に電話連絡をされている。手紙の職員が帰宅途中に投函して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンが対面キッチンになっているので、調理の香りや音はいつも感じてもらっており、食事前から音楽を流し、ゆったりと音楽を聴きながら食事をしていただくように工夫している。	広くゆったりしており、一望できる窓外の景色は、自然を身近に感じさせている。生け花、折り紙作品の装飾などは、混乱を起こさない落ち着いた環境になっている。利用者が自分の意思でゆっくり座ることができるソファを適度に配置し、トイレなどの適当な場所表示は、見当識の補助をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間では独りになれる場所は作っていないが、リビングのソファでは気の合う利用者同士がテレビを見たり、会話をしながら思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく今まで使用していた物や好みのもので持ってきてもらうように入所時に説明している。	室内のものはすべて持ち込みになっている。毎日清掃をし清潔にしている。好きな色や柄のカーテンをかけ、家庭を思い出させる写真や家具、作品や表彰状を身近に置き、ホーム利用する前の各人の人生を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置しており、トイレや浴室などは便所・おふろと理解しやすい様に張り紙を貼り、利用者にわかりやすいように工夫している。		